

## 2014. 9. 4 記者会見での発言要旨

「浜岡原発の再稼働を許さない静岡県ネットワーク」発足記念集会在る8月2日にありました。静岡県内の41の団体がネットワークに参加しています。私たちの弁護団も参加しています。8月2日の集会は、「フクシマを教訓に何を学ぶのか」というテーマで馬場有（たもつ）浪江町町長の話の聞いたり、私たちの訴訟の原告の一人である三上元（はじめ）湖西市長の来賓挨拶があったり、西原牧之原市長、小野伊豆の国市長の話もありました。そこで、確認されたことは、フクシマを忘れてはならないこと、フクシマから学ばなければならないことということでした。

ところが、中部電力は、フクシマから何も学んでいないとしか評価できません。本日の口頭弁論期日で陳述された準備書面（11）では、中部電力は、「最新の知見を踏まえ過去地震による既往最大の地震動を上回る地震動を想定し、耐震安全性を確認するとともに耐震工事を実施するなどしてきている」と主張しました。この断定にこそ、中部電力がフクシマから何も学んでいないことが如実に表れています。

「過去地震による既往最大の地震動」なんて、わかる訳がないのです。不十分ながらわかるのは歴史地震です。有史以前の地震の大きさが分かるはずはありません。フクシマの事故は、人間の傲慢さを反省せよと言っているのです。常に想定外があるのだということ、どんなに科学が発達しても自然を封じ込めることはできないということを謙虚に受け止めるということだったはずです。

中部電力は、平成17年に自主的に耐震裕度向上工事を行ったと言います。しかし、主要施設については、改造工事の必要がないとして、工事を行っていません。フクシマ後においても、平成17年の耐震裕度向上工事の際の目標地震動で十分だったということです。中部電力は、フクシマの事故の原因は津波であると断定しています。それは、地震動によって少しでも壊れたということ認めることは、自分たちの原発の再稼働に都合が悪いからです。都合が悪いことはなかったことにしようという姿勢です。これは、フクシマから何も学んでいないということです。

中部電力の姿勢は残念でなりません。

さて、「浜岡原発再稼働を認めないで！県一斉署名」の活動が始まりました。冒頭に述べた「浜岡原発の再稼働を許さない静岡県ネットワーク」の活動の一つです。フクシマを忘れかけている静岡県民に対し、フクシマを認めないで！フクシマの惨状を考えれば、浜岡原発の再稼働は認められない！ということを訴え、共感を得たいと思います。私たちも、この署名活動に協力するというか、積極的に、署名活動をしていきます。どうぞ、よろしくお願いします。